



追悼 故 入澤 宏 名譽教授

医学部第一生理学教室の入澤宏名誉教授は、去る十一月十九日胃癌のため逝去された。六九才まで研究の第一線で活躍されていた先生の余りの突然の死は、日本のみならず世界の生理学者にとって惜しまれもありあるものがある。先生は、東京慈恵会医科大学を御卒業後西丸教授の招請により広島県立医科大学生理学教室の創設に参加された。当時の教室の脈管学を主題とした比較生理学の研究から細胞自動能の発生機構という生涯に渡る研究主題を持たれた。更にワシントン州立大学のラシュマー先生のもとで二年間電気生理学的手法を学ばれた。昭和三五年に教室を継承され弱冠三六才の少壮教授として教育・研究に新風を吹き込まれた。研究は、比較生理学、細胞生理学から人体生理学に至る多岐に渡るものであつたが、常に研究主題は変わらなかつた。自然に対する旺盛な探究心を基に研究に明け暮れる毎日であつたが大学紛争は先生からこの生活を奪つた。しかし、紛争解決に熱心に取り組まれそのために数年間を費やされた。その後ベルン大学のワイドマン教授との共同研究で念願の心臓自動能の発生機構への直接的研究に着手された。昭和五四年に国立生理学研究所に移られ研究主題について一層仕事を押し進められた。これらの業績に対して紫綬褒賞及び上原賞を受賞された事は輝かしい出来事であつた。退官後も、カルガリー大学、東京女子医科大学と常に第一線の研究の場に身を置かれ、持ち前の抱擁力のある人柄でさらに多くの若い人々に研究の楽しさとあり方を示し続けられた。門下から輩出し独立した教室を営む者が、国内外において八名に及ぶ事は先生の学恩の深さを示すものである。

(医学部生理学第一講座 濑山 一正)

